

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	通正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												クロストリジウム感染	第37回日本細菌性 菌感染症研究会・ 講演抄録集 2007 年3月3日	58歳男性で受傷1日前より発熱、鼻汁、咳、嘔吐、受 傷当39度台の発熱があった。土木作業中に数パイプで 右前、側胸部を打撲し、翌朝打撲部の腫脹出現、疼痛増 悪。肋骨2本のひびが確認された。同夜、劇症型ガス壊疽 症状を呈し、死亡した。死亡直前の皮下気腫穿刺液から 菌性嫌気性芽胞グラム陽性桿菌が検出され、 Clostridium chauvoeiと同定された。C chauvoeiは獣医学 領域の病原菌としてよく知られているが、ヒトへの感染が 報告されたのは初めてである。
50	2007/04/12	70050	沢井製菓	トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュージー ランド、オー ストラリア、 アルゼンチ ン	有効成分	無	無	無			
51	2007/04/12	70051	シオノケミ カル	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナ トリウム	ブタ小腸粘膜	イタリア	有効成分	有	無	無	細菌感染	Int J Hyg Environ- Health 2006; 209: 553-556	イタリアAnconaの病院で入院中に少なくとも1回の38℃以 上の発熱をした患者4名から、同じ抗菌剤感受性を持つ 凝固菌が分離されたため、調査を行った。ヘパリンと生理 食塩水の混合液から凝固菌が分離され、患者の血液検 体から分離された凝固菌と同一のPFGEパターンを示し た。消毒液、生理食塩水、密閉されたヘパリン液バイアル は全て陰性であり、混合されたヘパリンと生理食塩水を 数日間使用したことによるカテーテル関連血流感染であ ることが明らかとなった。
												感染	J Hosp Infect 2007; 65: 15-23	outbreak databaseとPubMed検索、および関連出版物の 参考文献検索により、1990年以降の汚染された物質に関 連した院内感染(128報、患者2250名)について調査した。 血液製剤およびヘパリン生理食塩水の汚染が最も報告 数が多かった。病原体は血液製剤ではA型肝炎ウイル ス、Yersinia enterocolitica、セラチアが、その他では Burkholderia cepaciaやエンテロバクターが多かった。64 のアウトブレイクでmulti-doseバイアルが使用されてい た。
52	2007/04/12	70052	小林化工	コンドロイチン硫酸ナトリウム・サリチル 酸ナトリウム	コンドロイチ ン硫酸ナトリ ウム	サメの軟骨	注「海洋生 物由来の原 材料」	有効成分	無	無	無			
53	2007/04/12	70053	わかもと製 薬	ウロキナーゼ	ウロキナー ゼ	人尿	中国	有効成分	有	無	無	灰白髄炎	ProMED- mail20061003.2830	インドではポリオが流行しており、2006年にこれまで352 例が報告された。Uttar Pradeshだけで312例が報告され、 Biharでは20例である。ポリオによる死亡は23例となった。